

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	4	—	事業名	広聴事業	担当部課	市長公室情報課
------	---	---	-----	------	------	---------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	4	行政情報を提供し、住民意見を聴く機会を充実する	款	2	総務費
		施策の進め方	—		項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	7	広報広聴費
		政策分類	1	広聴機能の強化	大事業	3	広聴事業
	その他(関係法令、要綱等)		—				
事業開始の背景、経緯等		幅広く市政に関する意見やアイデアを聞くことにより、より市民ニーズに沿った施策・事業を実施するため。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市民からの意見、提案等を聴くため「ご意見箱」及びアイデア提案「一平さんへひと言」を市内主要施設及び市ホームページに設けている。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市に関わる全ての人					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市政に対する意見、提案等を進め、市政にフィードバックすることで、対象者にとってより良いと感じられる行政サービスを実施する。					
	事業を構成する事務事業	① 広聴事務事業	改善・見直し	④			
	②			⑤			
	③			⑥			

902

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			0	1,167
実績						0	902	
人件費(B)	千円	決算			8,849	9,552		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			8,849	10,454		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A ご意見・提案 受付件数	件	目標	800	600	500	500	500
			実績	463	422	489	520	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 市へ意見を言うことも住民の「まちづくり」への参加手段の一つととらえ、過去、ご意見及び提案をいただいた件数の実績を参考に数値目標を設定する。

B

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町も同様に行っている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 成果指標の目標に対して、実績は横ばいの状況となっている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 文書で投稿される場合、ご意見箱の他に様々なアンケート回収箱が同じ場所に設置されているため、市民目線でわかりにくい状態になっている。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 本市の目指すまちづくりにつながるようなご意見及び提案は、積極的にホームページに公開し、市民主体のまちづくりにつなげていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市政に対する意見、提案等を行いやすくするとともに、市民主体のまちづくりにつながる取組に資するようにする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広聴事業										
番号	①	事務事業名	広聴事務事業		款	2	項	1	目	7	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		—		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市に関わる全ての人に対して、ご意見「市政ご意見箱」及び提案「一平さんにひと言」を紙媒体と市ホームページにて受け付けている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	意見及び提案を集約し、市長始め業務担当部署に引き継ぐことで、把握した市民ニーズを施策へ繋げる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			0	1,167	1,194
		決算			0	902	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ご意見箱	件	目標	800	600	500	500	500
		実績	463	422	489	520	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

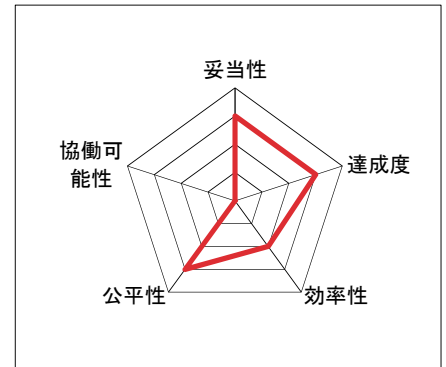
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市民には、ご意見「市政ご意見箱」及び提案「一平さんへひと言」の受付窓口の違いがわかりにくい。 また、ご意見及び提案の方法については、電話や文書より、ホームページのご意見箱を利用する件数が増加している。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
ご意見と提案の窓口の違いがわかりにくいこと及び投稿手段において紙媒体よりメールが多いこともあわせ、今後はご意見と提案受付窓口等の集約を検討する。
(何をどのような状態に改善したのか)
ご意見と提案窓口の集約は、意見投稿者に対する回答送付の短時間化と合わせ平成29年度に引き続き検討する。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
市に対して意見を言いたい適切な窓口が判断できない場合に、情報課が意見者に話を伺うことにより、より意見者の要望等を明確に担当課へ伝えることができる。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
臨時職員に割り振る事務も対象に限られるため、事務量増加に伴う職員による事務の効率化に苦心している。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
ご意見と提案の窓口の違いがわかりにくいこと及び投稿手段において紙媒体よりメールが多いこともあわせ、今後はご意見と提案受付窓口等の集約を検討する。また、意見投稿者に対する回答送付の短時間化も検討する。